

# ROTARY CLUB OF OMIYA WEST



2016～2017年度 大宮西ロータリークラブ週報



創立：1963年3月22日 会長 新見 和男 第2503例会 2017/ 2/ 6  
例会場：パレスホテル大宮 幹事 渋谷 廣慶 発行日 2017/ 2/27  
例会日：月曜日12:30～13:30 会報委員長 平岡 健太 会報当番 平岡 健太

## 会長あいさつ

会長 新見 和男

皆様こんにちは。  
今年は本当に寒い冬ですよ。  
いかがお過ごしでしょうか？  
風邪などひかない様ご注意ください。  
立春も過ぎ暦の上では春ですが、しばらくはこの寒さが続くと思いますが、本格的な暖かい春はいつ来るのでしょうか？



さて、ある調査によりますと一日の『笑顔時間』は平均2時間だそうです。年代別では、20歳以下が最も長いのにに対して40歳代は最短で、笑顔の時間が4割近く減っていたそうです。男女別では、男性が女性の半分以下との事です。

40代といえ、働き盛りなのに笑顔が少ないのは問題ですね。企業戦士ともてはやされ家庭も顧みず、一心不乱に仕事に従事した日頃の激務によるストレスで、笑顔が消えてしまったのでしょうか。

あるアンケートで、『人を笑顔にしてくれるのは？』の問いに対して一番多い回答は『子供』次いで『家族』だったそうです。

では、いつも笑顔でいられる人はどんな人でしょうか？

それは、『いつも笑顔でいる』という事を心がけている人だと言えるのでしょうか。つまり、笑顔を意識して日々を過ごしているということです。

歳を重ねるごとに笑顔が減ると言われています。意識して笑顔になる時間を増やす様心がけたいものです。

## お客様ご紹介 小木曾賢己 副会長

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー創設者・  
写真家 井津建郎 様  
第2770地区  
ロータリー財団部門委員長・越谷北RC 宮崎敏博 様  
資金管理運営委員会委員・さいたま樺RC 野原哲夫 様  
地区補助金運営委員会委員・春日部南RC 伊澤秀雄 様  
財団奨学・平和フェロー委員会委員・越谷東RC  
野口佐知代 様

## お客様ご挨拶

第2770地区  
ロータリー財団部門委員長  
(越谷北RC)

宮崎敏博 様



## 幹事報告

幹事 渋谷廣慶



- ①2月に入りました。後期会費が未納の方、お早めにお願ひ致します。
- ②会長挨拶でもふれていますが、2月16日(木)は第4グループIM開催日です。何度もふれましたが大宮西RCの会員比率は45%を占めております。成否は皆様の出席にかかっています。是非出席をお願ひ致します。

## 親睦と奉仕そして人づくり

事務局：さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-12ビル 4F

TEL. 048-871-8881 FAX. 048-871-8882

E-mail: info@rc-omiya-west.com HP: http://rc-omiya-west.com/



## 委員長報告

### 奉仕プロジェクト部門 高橋秀樹 委員長



クラブ創立54周年記念事業として、第3回鉄道博物館ナイトミュージアムー親子で学ぶ鉄道の街大宮一の移動例会を、3/25(土)17:45点鐘～21:00で開催いたします。

当日は、鉄道博物館を貸切り、当クラブ関係者並びに大宮区内小学校と大宮ろう学園の児童・保護者・お友達、その他関係者を無料でご招待いたします。

皆様のご関係の方に参加を呼び掛けていただくとともに、会員の皆様全員のご出席を是非ともよろしく願いいたします。

2/24(金)までに出席と申込人数をご報告ください。

### 地区職業奉仕部門 清水恒信 委員長



2/16 IMの出席者数がとても少ないので、是非もっと多くの方に出席をして頂きたいと思えます。これ程出席者が少ないのはかつてない事です。皆さん宜しく願い致します。

## 御礼

### 高橋誠一 会員



2/2叙勲の祝賀パーティーには沢山のロータリーメンバーにご出席を頂き有り難うございます。会場には400人位いらして、ロータリーのメンバーが大勢でしたので非常に賑やかな良いパーティーになりました。パレスホテルさんにも便宜を図って頂き、本当に賑やかなパーティーでした。皆様有り難うございました。

## 誕生祝

## 2月生まれ



### 親睦委員会 藤嶋剛史 委員長

渋谷廣慶(4日)、天池健二(5日)、矢部正博(7日)、石丸主憲(10日)、小沼輝雄(11日)、染谷義一(21日)、村松宏呂子(23日)、富加見俊彦(25日)、齋藤 實(28日)、高橋真貴子(28日)、  
各会員



### 代表して 石丸主憲 会員よりご挨拶



本日はお誕生日お祝いありがとうございました。個人的には最近あまり誕生日のお祝いというのはなかったような気がしますので、大変感激しております。2月生まれのメンバーを代表して厚く御礼申し上げます。

## ロータリーの友

### 広報・雑誌委員会 原田益孝 委員



### 【横組の方から】は

P3に掲載されているジョンF ジェームスRI会長のメッセージで「世界はますますロータリーを必要としている」と言う記事ですが、「ロータリーが無かったら、世界はどうなっていたか知る由(よし)もありませんが、ロータリーのない世界よりは間違いなく格段に良くなっているのは間違いないと自信に満ちて語っています。」どんな小さな奉仕活動でも世界をより良い場所に変えていくとの事です。

P7～10に掲載されている特集の「合併・・・その後」ですが、当クラブは問題ありませんが、会員減少のクラブに於いては対応策として「合併」も一つの手段ですが、3件の実例が紹介されており、当地区の2012年2月に合併した「八潮みらいRC」が紹介されております。二つのクラブが一緒になるのは運営方法や継続事業など困難な問題も多いようです。人口減少が言われる中で会員が楽しくロータリー活動に取り組むためにも今後の大きな課題かと思えます。

P11～15には「ロータリー財団100周年を祝う」には各地区で行われた「ロータリー財団100周年記念イベント」が紹介されており、当地区では大宮シティRCが地元のフリーマーケットに参加し地区補助金を活用して被災地の産品を販売するとともに財団のアピールも行っていました。

### P16～19

End Polio Now では日本では2000年に根絶したため、国内では理解を広める事が難しいですが、世界のポリオ撲滅のためにチャリティーコンサートやポリオ撲滅募金活動など様々な形でPRや活動が

行われていることが紹介されています。

P29では地区大会略報で11月12～13日に越谷で開催された当地区の報告が掲載されています。

P30～31の「心に共に」は浦和北RCが福島からサッカー少年団2チームを招待してサッカー大会とスクールを開催し交流を図った記事が掲載されています。

#### 【縦組みから】

P4～8に「与えて生きる喜び」は2570地区 地区大会講演の要旨で、酒井住職が「善きことをなす」と言う教えについて様々な例をひいて分かりやすく語った内容が掲載されています。詩人の金子みすゞの作品やアイヌの生き方などに見る「与える心」はロータリーの奉仕にの心と通じるものがあります。そして「果報を求めない」「共に喜ぶ」と言う奉仕の在り方を説き、最後に「語り歩む」と言う言葉で実践を勧めています。

P9～12には「クラブを訪ねて」では愛知県半田市の会員数61名の半田RCが紹介されています。半田市は江戸期より酒や酢などで栄えた古い町でユネスコの無形文化遺産に登録された塩干祭やはんだ山車まつりなどが盛んであります。当クラブは2005年の愛知万博での交流以来、ブータンとは支援活動以外に青少年交流も行っておりま。古い街並みも残り、訪れてみたいクラブでもあります。

P16には「祝！安倍豊任PG100歳誕生日：掲載されています。当クラブも先日大竹さんの卒寿、そして大熊さんの傘寿のお祝いを行いました。甲府RC次年度50周年を迎えるがその創立会員の安倍パストガバナーが元気に100歳を迎えられ、ポールハリスゆかりの月桂樹の苗木を武田神社境内に植樹されたことを紹介されています。大変おめでたい事です。

P25「ロータリーアットワーク写真編」では東京狛江RC「障害を超え、スポーツ交流」には地元の大学生との連携のもと「ふれあい運動会」を開催し、119名の障がい者と健常者がともに楽しい1日を過ごしたことが紹介されています。

また、当地区の浦和ダイヤモンドRCと浦和東RCが豪華クルーザーで交流したことをP23に紹介されています。

P29「ロータリーアットワーク」の記事では我が大宮西RCが昨年の10月9日に行われた「ピンクリボン運動夜間例会」が紹介されています。

## ゲスト卓話

フレンズ・ウィズアウト・  
ア・ボーダー創設者、写真家  
井津建郎 様



『レンズを通して見つけた命』  
古代遺跡を中心に撮影する写真家として1979年から

世界各地を旅してきました。

そのエジプトから始まった旅はシリア、メキシコ、インドネシア、ミャンマー、チベット、スコットランド、フランスなどを経て1993年に初めてカンボジアへ撮影旅行へでかけたのです。

しかし壮麗なアンコール遺跡の陰に貧困と医療の不足に苦しむ子供達を見たのです。

ある日訪れた政府運営の病院で私の人生を変えることになる経験をしました。

それは遠い農村から病気のため父親に連れられてきた少女が、父親がわずか2ドル相当のお金を払えないために何も治療を受けられずに私の目前で亡くなった事件でした。

貧富にかかわらず全ての子供達に医療を提供したい、との思いからNPO、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーを創設しアンコール小児病院計画が始まったのは1996年でした。

3年間の準備、建設期間を経て1999年1月にアンコール小児病院は開院しました。以来17年間に160万人の子供達を診療、現在520人のカンボジア人スタッフが毎日500～800人の子供達の健康に奉仕しています。

2013年にアンコール小児病院を現地に創設したNPO、アンコール小児病院インターナショナルに移譲して現地化を果たしました。

それを機に、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーは隣国ラオスに姉妹病院、ラオ・フレンズ小児病院の建設と運営を始めました。

ラオスはカンボジアに劣らず貧困と医療レベルの低さに苦しみ、現地保健省からも好意的に私たちの計画を迎えてくれました。

ラオ・フレンズ小児病院は2015年2月に開院、以来2万5千人の子供達の診療をしてきました。今年1月には開院2周年の式典をラオス保健省と外務省、ルアンパバーン保健局、県立病院の方々とラオ・フレンズ小児病院スタッフ約80人とフレンズ理事10名、そして外国からの支援者が集まって祝うことができました。

2016年の夏から秋にかけて外科手術室、新生児ケア室が順次開き、現在は予定されていた部署全てを開くことができました。今後はスタッフの医療教育に重点をおいて、将来の自立への準備を重点としたいと思います。

フレンズのシンボル・マークの緑のハートは双葉を意味しています。

私たちが撒いた小さな種が、カンボジアのアンコール小児病院のようにやがて大きく健康な木になり、ラオス始めアジア全ての子供達が愛情と健康を享受できる日を目指して、皆様とともに活動していきたいと思っています。



井津建郎様(写真左)  
と新見和男会長